

平成28年度学校評価の結果について

北海道美深高等養護学校あいべつ校

1 教職員アンケートの結果

(1) 調査対象

教育職員（教諭 実習担任教諭 実習助手 養護教諭） 21名
行政職員（事務職員 非常勤公務補） 4名 計25名

(2) 回収率

教育職員 21 / 21 (100%)
行政職員 4 / 4 (100%) 計25 / 25 (100%)

(3) 集計における留意点

行政職のため、教育に関する設問に回答できない項目があることから、教育職員のための集計も行った。

(4) 設問項目からの分析

ア 評価の高い項目

肯定的回答（A：十分である、B：おおむね十分である）が90%を超えた項目
経営方針、安全指導（危機管理）、保護者対応（服務規律の遵守）、事務手続き

イ 評価の低い項目

肯定的回答（C：やや不十分である、D：不十分である）が比較的多い項目
教育課程、生徒指導、安全指導、進路指導、情報発信、連携、保護者対応（合意形成、PTA活動）

ウ わからないと回答した項目

経営方針、教育課程、生徒指導、進路指導、情報発信、連携、保護者対応（合意形成）

集計からの分析

- 学校教育目標や教育方針、経営方針の達成に向けて教育実践を行っている成果が表れた。
- 信頼される学校を目指して、教職員一人一人が服務規律の遵守を強く意識し、実践を行った成果が表れた。
- ▲ 学校教育目標や教育方針の達成に向けて取り組んでいる、個別の指導計画及び個別の指導計画の充実にむけて、P-D-C-Aサイクルによる再点検行い、抽出された課題を次年度の重点課題として取り組む。
- ▲ 特別支援教育の専門性を基盤とした個に応じた指導をはじめとした、教職員個々の専門性向上に向けて、校内における実践研究の充実に加え、校外における研修会等へ計画的かつ積極的に職員を派遣し、研修内容の還流を行う。
- ▲ 昨年度に引き続き、教育方針や教育内容について積極的な発信に努める。
- ▲ 進路関係の情報の発信や共有、生徒の進路実現に向けたシステムや取組方法の再構築を図る。
- ▲ 保護者との合意形成の確立に向けた、教員の専門性についての研修を積極的にすすめる。

2 保護者アンケートの結果

(1) 調査対象

保護者 43名

(2) 回収率

保護者 38 / 43 (88%)

(3) 設問項目からの分析

ア 評価の高い項目

肯定的回答（A：十分である、B：おおむね十分である）が90%を超えた項目
教育方針、教育課程（個別の教育支援計画、個別の指導計画、個に応じた授業）、
生徒指導（適切な指導、信頼関係）、安全指導、保護者対応（相談、適切な態度）

イ 評価の低い項目

否定的回答（C：やや不十分である、D：不十分である）が比較的多い項目
生徒指導（共通理解）、進路指導（情報提供）、保護者対応（PTA活動、情報伝達）、
事務手続き

ウ わからないと回答した項目

教育課程（個に応じた授業）、生徒指導（適切な指導）、安全指導（安全対策）、
情報発信（ホームページや学校便り）、保護者対応（適切な態度）、事務手続き

集計からの分析

- 27年度に引き続き、保護者との対応時の服装や態度について、高い評価を得た。
- 保護者への適切な情報提供や説明（教育内容、個別の教育支援計画、個別の指導計画等）によって、相談における満足度の向上につながった。
- 生徒との信頼関係に基づいた生徒指導について適切に行われていると評価された。
- 事故防止に向けた安全対策や施設・設備により、安全・安心な学校生活を送ることができていると評価された。
- ▲ 卒業後の進路につながるための情報を、効率的に提供できるシステムの構築を図るとともに、より実践的な研修会を開催することを検討する。
- ▲ 将来の自立や社会参加に向け、生徒個々の障がい特性に応じた、より実践的授業への期待の大きいことが明らかとなった。
- ▲ 多くの保護者が参加でき組織が活性化するPTA活動について検討する。

3 教職員アンケートと保護者アンケートの比較の結果

(1) 教職員の評価が高く保護者の評価が低い項目

保護者対応(情報の伝達) 92% : 87%

事務手続き 92% : 87%

(2) 保護者の評価が高く教職員の評価が低い項目

教育課程(個別の教育支援計画) 90% : 80%、教育課程(個別の指導計画) 90% : 84%

教育課程(個に応じた授業) 90% : 68%、生徒指導(適切な態度) 92% : 76%

生徒指導(信頼関係) 90% : 88%、安全指導(施設・設備整備) 97% : 84%

情報発信 90% : 84% 連携 95% : 84%

(3) 教職員、保護者ともに評価が高い項目

経営方針 92% : 90%、安全指導(危機管理) 96% : 90%

保護者対応(適切な言葉遣いや態度等) 96% : 92%

(4) 教職員、保護者ともに評価が低い項目

生徒指導(共通理解) 80% : 82%、進路指導(情報提供) 84% : 79%

保護者対応(P T A 活動) 80% : 87%

自由記述と集計からの分析

■ 保護者対応(P T A 活動の充実)について

- ・行事(体育祭、学校祭など)において、保護者がより主体的に活動できる内容を設定する。
- ・従来より実施している懇親会や学習会の他に、卒業生の保護者による講話等、より活発な情報収集及び交流促進が図られるような場面を設定する。

■ 安全指導(危機管理)について

- ・生徒指導や生徒対応について、職員間での共通理解を十分に図り、即応的に対応できる指導体制を検討する。

■ 情報発信、保護者対応について

- ・より丁寧な保護者対応に努める。
- ・できる限り平易な表現を用い、保護者にとって分かりやすい内容の文書作成に取り組む。

■ 進路指導

- ・進路先決定までの取組内容および、卒業後の生活についての具体的な道筋を、生徒や保護者にとって理解しやすい方法で説明する。

4 生徒アンケートの結果

(1) 調査対象

生徒 43名

(2) 回収率

生徒 40 / 43 (93%)

(4) 設問項目からの分析

ア 評価の高い項目

「はい」が90%を超えた項目

生徒指導（社会でのルールやマナー）

イ 評価の低い項目

「はい」が90%を下回った項目

自己有用感（60%）、進路指導（68%）、信頼関係（75%）、

友人関係、学習指導（78%）、困り感、満足度、相談体制、学習の内容、自己有用感

ウ わからないとの回答が10%を上回った項目

自己有用感（30%）、進路指導（25%）、学習指導（20%）

信頼関係、満足度、困り感、相談体制、学習の内容、友人関係、生徒指導

集計からの分析

- 生徒指導について、昨年度に引き続き、社会人になるために必要な力についての指導を徹底して行っていることが生徒にも伝わったためだと考える。
- ▲ 友人関係、自己有用感については、ともに対人関係の希薄さ、自己理解、他者理解に課題のあることが要因だと考えられる。生徒同士で互いのよさを伝え合う場面や、周りの人から感謝される場面を多く設定する必要がある。
- ▲ 進路指導について、昨年に引き続き、卒業生がいないことから具体的な進路状況が見えず、まだ先のこととして捉えているための回答と思われる。
- ▲ 信頼関係については、生徒自身で指導される内容を素直に受けとめられていない、または生徒個々の特性に応じた適切な指導がなされていないことが要因だと考える。

自由記述と集計からの分析による取り組み

- 対人関係に対して不安に感じているという記述があった。「友人関係」「自己有用感」についての分析同様に、対人関係の希薄さ、自己理解、他者理解に関わる指導の充実を図る必要がある。
- 部活動の充実に関わる記述があった。今年度は生徒のニーズから運動系の部活動を増やし、各種大会に向けて土日等活動を取り入れてきた。今後も生徒のニーズを十分に把握し、可能な活動、種目、練習日程等について検討していく。
- 生徒会役員改選の時期について学校祭近辺にしてはどうかとの記述があった。時期については、分掌内でも検討中なので、生徒の意見として参考にしたい。